2024 年度　広島教区「平和を創る人々の集い」報告

「平和を実現する人は幸いである」（マタイ５章９節）

◆日時　　2025 年 1 月 11 日(土)13:00 ～ 12 日(日)13:30 解散

◆スケジュール

11 日　9:00 **幟町教会**集合　マイクロバス

広島　７名　岡山　３名　　下松 SA　休憩

12:00～12:45　**常盤公園**　石炭記念館　見学

13:00　**宇部教会　合流**　山口 11 人　東京 1 名　下関 1 名

13:30～15:30　**長正炭鉱追悼ひろば～坑口　フィールドワーク**

案内：長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会　井上洋子共同代表

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会 - chouseitankou ページ！

●yab 山口の取材が入りました。YouTube

遺骨は今も海の底･･･山口県宇部市「長生炭鉱」今月末から遺骨収集再調査

16:00～17:00　**宇部教会**

講話：「キリスト者として国家の負の歴史にどのように向き合うのか

-長生炭鉱を訪ねて- 」　　中井淳 sj

19:30 **ロクスひよりやま**　到着

20:00　夕食　分かち合い

発題：S さん「2030 年、あなたの夢見る教会は？」2006.1.1 カト新

12 日　8:00　朝食

9:00　講話　中井神父　　黒崎教会 1 名追加

9:30　祈りの時間

10:00　分かち合い

11:15　派遣ミサ　伊藤神父・中井神父

12:30　昼食

13:30　解散

17:10　**幟町教会**　解散

◆宿泊人数：　11 名

【報告】 今回のフィールドワークは、山口県宇部市にある長生炭鉱は、1932 年操業の海底炭鉱で、1942 年２月３日朝、海底に延びた坑道のおよそ 1km 沖合で水没事故が起き、183 名の鉱夫たちが今も暗く冷たい海に眠ったままになっている。そのうち７割に及ぶ、136 名が朝鮮人労働者。現在「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」（以下、刻む会）が、この炭鉱の坑口を探し、開け、遺骨収集に向けた活動を継続されている。刻む会は、この事故を戦争遂行のため安全面を度外視し石炭を採掘したため事故が起き、「人災」ととらえているので、国に対しても遺骨返還事業として取り組んでもらいたいと申し入れをしている。30 年に及ぶ地道な活動は、韓国のご遺族を探し出し、追悼ひろばに追悼碑を建立し、さらに遺骨返還までと、資金をクラウドファンディングで集めて継続中。他人事ではなく、小さい人々に寄り添う活動には、わたしたちも学ぶべきものが多く、今後についても注目していきたいと思う。

フィールドワークを終え、宇部教会で中井神父様の講話。「和解に向かう歴史認識」「死者の声を聞く」「共に未来を作っていく Build the future together」歴史は消えることのない事実。事実をしっかりと受け止め、「平和を実現する人は幸いである」（マタイ 5:9）に近づくために、これからも、ここに集ったみんなとともに歩み、さらに広げていくことが課題だと思った。

ロクスひよりやまでは、岡山の S さんの発題で、2006 年のカトリック新聞の記事「2030 年あなたの夢見る教会は？」で盛り上がった。少なくなったとしても、その時代の流れでなんとかなるはず。暗い未来ではなく、希望を持つことが大事。イエス様とともに。

２日目も引き続き、分かち合いと祈りを共にしつつ、教区を超えた交わりも生まれた。地区単位のチームとチームを繋げるデスクの役割をあらためて実感し、イエスの正義と平和のために、力を充電したメンバーは、それぞれの地へ派遣された。

「平和を作る人々の集い」　長生炭鉱　フィールドワーク　参加者感想　　2025/1

●「長正炭鉱の水非常を歴史に刻む会」井上様へ
先日は、寒い中、ありがとうございました。
私はこの度現地に行き、活動をされている方と直接お会いし、生の声をお聞きして、その現場の全体の様子、温度、空気等から、当時の様子を体全体で感じたような気が致しました。80 年前の出来事は、井上さん達のような方々が人生をかけて活動されていなかったら、もう永久にこの世からは忘れ去られてしまうところでした。
　このような悲しい出来事が再び起こらないようにする為には、きちんと学ぶこと・関心を持つことが大切だと分かりました。
　そして、井上さん達の地道な活動により、一人でも多くのご遺骨をご遺族の元にお返しができ、日朝・日韓に真の平和が訪れますようお祈りいたします。
　どうぞお体に気をつけて活動を続けて下さい。

●私は宇部に炭鉱があったということは知っていましたが、強制連行や痛ましい水没事故については全く知りませんでした。
　日本は第二次世界大戦における加害者の面をほとんど隠したまま現在に至り、当時を直接知っている世代の方々の高齢化が進む中でどれだけ事実を知ることができるのか、そしてそれを下の世代に伝えていけるのかを考えさせられました。
　今回見られなかった場所も見たいので、またタイミングをみてフィールドワークに参加したいと思います。貴重なお話を聞かせていただき本当にありがとうございました。

●長生海底炭鉱水没事故を初めて知りました。
　説明には、深く深く涙しました。30 年間、地道に探求された井上さんに感動します。
生命ビジョンの哲学者ベルグソンの言葉、『そこに、記憶の意識が在るのではなく、そこに、過去が現出する』生々しさに魂が共振しました。
　心より感謝申し上げます。
　小生、するべき事が多いですので積極的関与することは出来ませんが、私の関わる遺恨の魂ときずな交流を強く感じていますので、私の生き方、精神的な（意識では無く現実次元）の交わりで追悼し続けます。
　お体に御留意されますように。
　お大切に

●長生炭鉱のフィールドワークは大変貴重な体験でした。新聞などで拝見していた井上洋子さんと実際お会いできたことが大きな収穫。長年の運動に敬意を評したいです。慰霊碑を建立し１つの目的を達成されやれやれという時にさらに朝鮮の遺族から遺骨を持ち帰りたいと要望されそれに答えるべく運動を続けられたと聞き本当に感動しました。

● 隣国への加害の歴史に踏み込むこの事業を進めておられる方々にまず、感謝申しあげます。ありがとうございます。堀当てられた坑道入口はいかにも脆弱な造りで、長生炭鉱起業者の拙速、低コストでもうけようとする、労働者の安全無視のやり方が見てとれました。
　冷たい水のなかで恐怖のうちに死んだひとりひとりを早く助け出してあげなければ。伊左治様、大変ですが、よろしくお願いします。おけがの無いように
　お祈りします。

●今回、長生炭鉱追悼ひろば、坑口の現地フィールドワークに参加させて頂き、また、井上共同代表に詳細な説明をして頂きありがとうございました。
日本テレビのドキュメントで「アポジの眠る海」を事前に見てきましたが、やはり、現地で実際にピーア、坑口を見させて頂き、水没事故の恐怖を感じました。戦時中で石炭増産の国に要請とはいえ、国は違法な操

業を容認していたことが許しがたいことです。朝鮮半島出身者が強制連行され、劣悪な環境で働かされて亡くなった方々のことを思うとやり切れません。
「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」のご努力で坑口が発見さて、潜水調査で遺骨の発見に希望も見えてきました。
１日も早く、遺骨が発見され、遺族に返還されることを願っております。
今後も状況を注視し、支援させて頂きたいと思います。
ありがとうございました。

●長生炭鉱跡地を訪問して日本の朝鮮半島植民地化は苛烈な統治であったと聞いていましたが、実際に寒風吹くその現場に立ち会い未だ百有余柱のご遺体が私たちが立っている下の海中の坑道に閉ざされたままと思うと深い悲しみの思いに包まれました。合宿所での非人間的な扱いの上に水没事故発生のあとの事故をもみ消すがごとき坑道閉鎖にいかに戦時中とは言え救いがたい非人間性を感じました。いかなる状況であろうと人としてしてはならないことがある…明治以降の帝国主義、そしてその結果としての父親たちの世代の戦争を通して私たちが学び心に刻みつけておくべきことだと感じました。

●長生炭鉱水没事故とは何だったのか。国は、犠牲者を引き揚げることもせず抗口を閉じて、83 年も放置したのはなぜか。犠牲者 183 名の内、朝鮮半島出身者が 136 名もいたのはなぜか？
　井上代表の正確で丁寧な説明によって、この事故の核心をはっきりと理解することができました。
　長生炭鉱「水非常」は日本による戦争の中で起こされた事故であり、強制連行による朝鮮半島の人々に犠牲を強いたものであると。
　ご遺族を招いた追悼集会をおこない、クラウドファンディングによる資金で坑道を開けて、遺骨をご遺族のもとにお返しするなどを市民が行うことは、大きな意味があると思います。
　２月１日の追悼集会前後に、遺骨の潜水調査も行われます。成功を祈るばかりです。
この市民運動に微力ながらお手伝いできれば…と、思っています。

●　初めて間近でみた床波の海とピーヤ。漁港と灯台、西光寺の大屋根、懐かしい家並背後にみえる日の山。足下の海は限りなく穏やかで美しい。
　この海底に眠る183名の方々。戦後生まれだが親世代から惨事のことは折に触れて聞いてきた。「生き埋めだからね。むごいこと。戦時中の事だからね」子どもながら真剣に聞いた。
　現場を案内されあと同級生と情報共有したいと思い資料を取り寄せた。説明で良く納得できたことと同時に新たな疑問も。
　自分自身の中に過去がどのように投影されているか確かめていきたい。
　自問を問い詰めていくと「その解答を未来に求めれば、宗教や哲学になり、過去に求めれば歴史になる」と言った人がいる。

●　「水非常の会」の発起人の一人、亡き山口武信先生は、坑内に残された遺骨は、海水に溶かされているかもしれないと、漏らされたことがある。
　韓国の青年を長生炭鉱の記念碑に案内した時に、「なぜ遺骨を収集しないのか」と問われて、韓国の人の死者に対する強い思いを感じたことがある。
　「追悼ひろば」が完成した時、韓国の遺族会から「遺骨を収集しないまま、これで終わりではないでしょうね」と問われ、山口先生が「（遺骨を）掘りましょう」と答えられ、現在の活動につながっているとの井上代表の説明は、山口先生を知る者として、深く心動かされた。
　これからどんな展開があるにしても、長生炭鉱の水非常という日韓史の悲劇を語り伝えていく義務を負わされている。

●この度、長生炭鉱を訪ねる企画で初めて知りました。
当日、井上さんのお話で、朝鮮人労働者がいかに過酷な状況で働かされていことや水没事故起きたときのことなど知ることができました。

追悼記念碑を建立され、ピーヤの保存運動など、朝鮮の方々の名簿作りにも丁寧にされていて頭が下がりました。
これから、坑口からの遺骨発掘に向けての作業は大変だと思いますが、出来ることを応援させて頂きます。
また、この長生炭鉱の事を周りの人に話したいと思います。
一日も早く御遺骨がご家族の元に帰ることが出来ますようにお祈り致します。
ありがとうございました。

● 人間を労働力としてのみ扱ったことの重さを感じる体験でした。そして何より、関わっている方々、刻む会の皆様と被害者家族の皆様の、強い憤りや深い悲しみを抱きながらも加害につながる方々にも配慮する広いお心に感銘を受けました。そのお心があってこそ、少しづつ道が開けてきているのだと思いました。次は、韓国からの神父さまや知り合いの教員、そして若い人たちにも伝え、一緒に訪問したいと思っています。

●長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会　井上共同代表　みなさまへ
　この度は、急なお願いにもかかわらず快くフィールドワークを受け入れていただきありがとうございました。もう少し早くお願いすれば、3 時間のコースをお願いできたのにと反省しております。娘が宇部に引っ越してきたのが約 10 年前になりますが、石炭記念館と長生炭鉱のピーヤを見に行ったことを覚えています。その時は、今のような追悼ひろばはなく、追悼碑はどこにあるんだろうと、道路をウロウロした記憶があります。海岸線に出たときのピーヤの衝撃は忘れられません。うつくしい海の中に墓標のように見えるピーヤ。その海底には 183 名のご遺骨が放置されたまま。7 割が朝鮮半島出身者。30 年もの間、地道な刻む会の人たちのご尽力を知り、過去の歴史に向き合う姿勢に感動しました。
　一日も早くご遺骨がご遺族の元に帰ることが出来ますように、また、遺骨発掘作業が、事故の無いようにお祈りいたします。